

## 成功のカギは仲間

15期金属工学科卒：西田 浩志

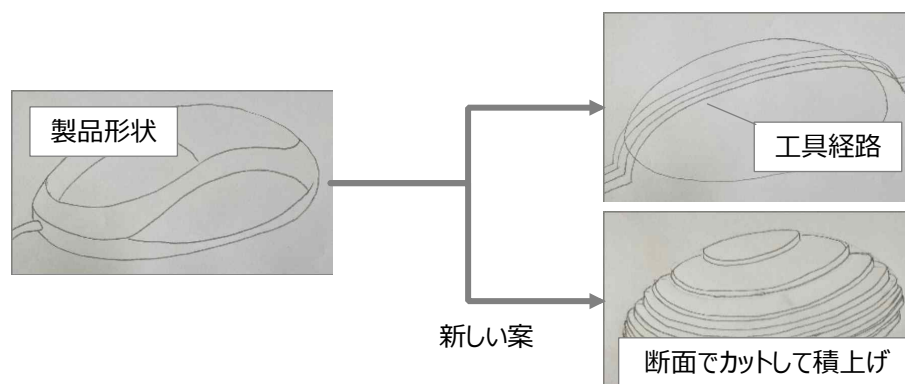
若い頃、「実現したい事は誰にも言わず黙って取組めば良い」と思っていました。しかし今は、「実現したい事を仲間と共有し周囲の協力も得て取組んだ方が良い」という認識に変わってきました。その事に関するエピソードをご紹介します。

20代の半ば、デザインした製品形状を物理的に表現する仕組みを発想し、思考錯誤した事がありました。その頃CADの営業技術を担当しており、金型メーカーに3次元CADを活用した3軸切削を提案していました。当時の考え方は、CADで製品形状（例えば、マウス）の3次元モデルを作成し、これを工作機で切削するための工具経路を自動生成するという考え方で、かなりの手間を要していました。もっと簡易に製品形状を表現する良い方法はないかと考えていたとき、こんな案が頭に浮かびました。

3次元形状の断面を細かいピッチで作成し、板を断面でカットして積上げたらほぼ形状が再現できるだろうと。

実際に厚紙を買ってきて試作したり、金属板の圧着の仕組みを調査したりしましたが、金型への適用を考えると、精度への要求に対応できず、悩んだ末に諦めました。

この考え方は、数年後に光硬化樹脂を使った造形として某会社で製品化されましたし、現在の3次元プリンターと同じなので、もう少し何かが出来ていたのではと思う事があります。このときは、周囲の賛同を得る自信が無かったので誰にも相談しませんでした。もう少し周囲の協力を得るべく頑張っていたらもうちょっと違った結果になったかもしれません。



また20代後半の頃、仲の良い友人や先輩と呑みながらよく議論をしました。  
あるとき先輩がこんな事を言っていました。「今からやろうとしている事を、周囲の人にも言って取  
組む人と、何も言わないで密かに取組む人が居るよね、ビジネスマンとしてはどうあるのがいいん  
だろうね?」、と。  
その先輩は、実現したい事があるならそれを周囲と共有した方がいい、実現できれば一番良いが、  
実現できなくてもトライした事には意味があるとの考えでした。私は、出来るかどうか判らない事  
を周囲に言う事には抵抗があって、黙って取組むのが現実的だと思っていましたので、そのときは  
答えが出ず疑問が残ったままになりました。

それから時が流れて40歳の頃、  
あるプロジェクトでちょっと面倒な問題が発生しました。関係者で対応策を検討し、誰が実施する  
かという段階になったとき、若い担当者が「それは僕の仕事です」と引き受けてくれた事がありまし  
た。これにはすごく感心しました。個人で頑張れば解決できる様な内容ではなく結構大変な問題で  
したが、1週間後には見事に解決して結果を報告してくれました。  
このときに気が付きました。  
これこそずっと頭の片隅に引っかかっていた「実現したい事は、黙ってやるか、周囲の人にも言って  
皆でやるか」の答えです。つまりリーダーは、課題や問題、解決策を関係者で共有する。そして関係  
者の中で解決出来ると思った人が手を挙げて実施する、これこそがあるべき姿なんだと。

そして今こう思っています。  
実現したい事が大きければ大きいほど、難しければ難しいほど一人だけでやろうとせず、実現した  
い事を仲間と共有し、周囲の協力も得て取組んだ方が良いと。  
実現したい事に向かって真剣に取り組んでいれば、やろうとした事が実現できなくても、恥じる必要  
はありません。やる前にあきらめる事をこそ恥じるべきです。

周囲の賛同を得るには「なぜそうしたいのか」を十分に考えて伝える必要があります。また、何が  
必要か、どうやったら実現できるかを考え共有します。誰が実施するかは後回しです。何もかも同  
時に考えるとなかなかうまく行きません。  
ただ日頃から、話を聴いてくれる、一緒に考えてくれる、協力、応援してくれる仲間を持つ努力は  
必要です。いい仲間が居ないと、実現したい事を意図した形で共有したり進めたりする事は難しい  
と思います。もしかしたら仲間づくりの方が重要かもしれません。

テレワークで人と会う機会が少なくなった今、何かと消極的になりがちですが、仕事だけでなく  
いろんな面での仲間づくり、実現したい事へのチャレンジを、もう一度ネジを巻き直して頑張ろう  
と思っています。いつまでもわくわくときめいていたいものです。

—以上—